

1 単元名 古い道具と昔の暮らし

2 目標

古くから残る道具に関心を持ち、道具の使い方やそれらを使っていた頃の暮らしの様子を地域の高齢者や父母から聞きとり、絵年表にまとめる活動を通して、昔の人々の願いや知恵に気付いたり、地域の人々の生活は道具の移り変わりとともに変わってきたことを考えたりすることができる。

3 単元について

○ 児童の実態

本学級の児童は、男子16名、女子15名、計31名である。事前のアンケートで、「祖父母から昔のことを聞いたことがあるか?」という質問には、31名中15名が「ある」と答えている。「どんな生活だったと思うか?」ということに対しては、「大変な生活」7名、「苦しくてつらい」7名、「貧しい」5名というように、マイナスのイメージがとても強い。理由を聞くと、「水道や電気がなかったから」、「昔は戦争があったから」、「食べるものが今と比べるとなかったから」などと答えている。昔の生活を考えるとき、今と比べていることが分かる。また、3月の震災による昔の暮らしに近い生活体験や2学期に高齢者から戦争体験についての話を聞いたことにより、今の生活が恵まれていることを実感している。

これまでの学習で、児童は、学校のまわりの探検を通して、自分が見つけた社会事象を絵地図にまとめる力が育っている。また、スーパーマーケットや納豆工場の見学を通して、直接見たり聞いたりしたことをもとに、工夫や努力を考えることができるようになってきた。また、地域の社会事象に対して疑問を持ち、自ら問いかけながら調べようとする児童も少しずつ増えてきた。しかし、発表や話し合いを苦手とする児童も多く、友達の意見を聞いて、自分の考えを深めていくこともなかなか難しい現状である。そこで、事実に基づいた児童の意見を積極的に認めることによって、児童が事実をふまえて考えることや友達の考えに繋げて話したりすることを習慣づけられるようにしている。

○ 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(5)のAに関する単元であり、古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を調べることを通して、地域の人々の生活の今昔の違いや変化、過去の生活における人々の生活の知恵を考えることをねらいとしている。

地域の人々の生活の変化を考える手がかりとして、暮らしの様子が見えてくる日常生活と密着した調理道具と風呂を取り上げ、実際に体験したり、聞き取りしたりする活動をさせたい。そして、古くから残る暮らしにかかわる道具の使い方を具体的に調べ、それらを使っていたころの暮らしの様子と現在の生活の様子を比べながら、地域の人々の生活が大きく変化してきたことや、自分たちの生活は、先人の人々のくらしと深くかかわっていることを理解できるようにする。社会科の学習での初めての歴史的な内容であり、地域の人々とのかかわり合いを大切にしながら体験活動を通して人々の思いや生活の知恵に気付かせたい。加えて、聞き取ったことを時間の流れに沿ってまとめていくことで、時間の感覚を育てたい。また、本校では、高齢者とのふれあい事業や市民センターの共用化などにより、児童の父母や祖父母だけでなく、地域の人々とのかかわりが密接である。これらの地域の人々に、昔はどんな道具を使ってどんな生活をしていたかを聞き取ったり、実際に道具の使い方を教わったりする活動を大切にしながら、学習を進めていきたい。

○ 指導観

郷土資料室にある地域の人々から寄贈された道具を見て考えたり、水戸市立博物館の昔の道具の出前授業を受けたりすることで児童自らが課題をもち、意欲的に学習を進められると考える。今の時代と比較しながら祖父母の子ども時代(戦前も含む)、父母の子ども時代の道具について調べることで、道具の変化が暮らしの変化を伴ってきたことに気づき、聞き取り調査を通して、よりよい暮らしをしたいという人々の願いが道具を変化させ続けてきたことをとらえられるようにしたい。

具体的には、郷土資料室で目にした「かまど」や「囲炉裏」が今の道具に変わるまでの変遷の様子に児童が興味をもった後に、炭を起こす作業を自分たちで行う方法を話し合う場を設定する。そして、地域の高齢者に教えてもらいながら「七輪」を使って実際に湯を沸かしてみること、昔の人たちが知恵を働かせ工夫を凝らして新しい道具を創り出してきたことを実感を持って理解できるようにする。これらの作業には時間がかかることが分かり、水道のない時代に風呂を沸かすには子どもが水汲みをしなければできないことも納得できるだろう。また、大人だけでなく子どもの生活も道具の変化に伴って変わってきたことも理解できると考える。そして、現在の自分たちの生活が祖先の知恵の上に成り立っていることにも気付くことができるだろう。体験や聞き取り・絵年表作りの中では、学習者同士のかかわりを多くした活動を取り入れることで、学び合う楽しさを味わうことができるようにしたい。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

みえる
わかる

「よりよい暮らしをしたいという昔の人の願いや知恵と工夫があって、道具が変わり、暮らしも変化して、今の生活ができるんだなあ。」

考える

昔の道具はどのように使うのだろう。①・②

昔はどんな道具を使って、どんな暮らしをしていたのだろう。③～⑩

道具や暮らしはどうしてこんなに変わってきたのだろう。⑪

見える・分かる

・ 昔の道具の使い方

・ 昔の人には、道具や材料をうまく使う知恵や技術があったこと

・ 昔使っていた七輪、風呂の使い方や工夫

・ 道具は簡単・便利に変化してきていること

・ 道具を使っていた時代の生活の様子

・ 使う道具は時代を経るごとに変化していること

・ 道具の変化が生活の変化につながっていること

・ 自由になる時間が多くなり、人々の生活も大きく変わってきていること

・ 昔は人手が足りないので子どもは家の仕事をよく手伝ったこと。今も手伝いはするが、昔ほど大変ではないこと。

・ 人々の願いが、道具や暮らしの変化にかかわっていること

学習材

- 道具の使い方を調べる
- 資料（書籍・インターネットなど）
- 郷土資料室・歴史館・市立博物館見学
- 昔の道具の観察と使用体験

- 昔のくらしの様子の写真
- 祖父母の世代・父母の世代の生活の様子を話してくれる保護者
- 学区内の高齢者の話
- 風呂焚きの写真
- 五右衛門風呂・風呂写真
- 道具の使い方を教えてくれるGT
- かまど・七輪・コンロ
- 出前授業

- 郷土資料室
- 最近の電化製品のパンフレット
- 友達の作った絵年表

5 評価規準

- 昔の道具やそれらを使っていたころのくらしの様子に興味をもち、意欲的に追究しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 過去の生活における人々の知恵や、道具の変化にともなうくらしの変化を考え、分かりやすく表現している。
(思考・判断・表現)
- 昔の暮らしの様子の移り変わりや、それを使っていた人々の思いを調べ絵カードや年表にまとめている。
(技能)
- 時代の移り変わりとともに、地域の人々の暮らしが変わっていることと、昔からよりよいくらしを願って様々な工夫や努力をしてきたことがわかっている。
(知識・理解)

6 単元の指導と評価の計画 (1 1 時間) (①・②は時数, ◇は評価)

①	郷土資料室で地いきの高れい者の方が子どものころの家の様子を見よう。 ・ 昔と今はどんなふうにならうかな。 ・ 何に使っていたか知りたい。 ・ 自分たちも使ってみよう。	◇ 昔の道具やそれらを使っていたころのくらしの様子に興味をもち、意欲的に追究しようとしている。 (関・意・態)
②	昔の道具は、どのように使うのだろう。使い方を博物館の人に教えてもらおう。 ・ 昔の道具はどんなふうにするのかな。 ・ 洗濯は手が冷たくて大変だね。 ・ 資料室にあったのは、ねこごたつだね。 ・ 暖房もアイロンも炭を使うんだね。 ・ 炭火を起こしてみよう。	◇ 道具や生活の移り変わりについて、課題をもっている。 (関・意・態)
③	昔はどんな道具を使って、どんなくらしをしていたのだろう。	◇ 道具の使い方について、図書などで調べている。 (技)
④	七輪やコンロを使って湯をわかしてみよう。	
⑤	これは空気を入れるためにあるんだ。火の調節までできるなんてすごい。	
⑥	スイッチを押せば火がつくなんて便利だね。 ・ 今はIHを使っているよ。	◇ 道具の使い方や、それを使ったころの生活の様子について、体験や聞き取り調査をして調べている。 (技)
⑦	お風呂をわかすのは、どうしていたのだろう。	
⑧	・ お母さんは食事づくりで忙しいから、お風呂に水を入れるのは子どもの仕事だったんだ。 ・ 協力して家の仕事をしていたんだね。 ・ お母さんの子ども時代は今よりは不便だけどその前から比べるとずっと便利になったね。 ・ 水道も使えるようになって、手間も時間もずいぶんかからなくなったんだね。	◇ 地域の人々の生活の今昔の違いや変化と過去の生活における人々の生活の知恵を考え、表現している。 (思・判・表)
⑨	道具やくらしはどのようにかわってきたのかうっかりかわりの様子を絵年表にしてみよう。 ・ かまども風呂もどんどん変化している。	◇ 道具の移り変わりとともに、地域の人々の暮らしが変わっていることがわかっている。 (知・理)
⑩ (本時)	昔から今へ、くらしはどのようにかわってきたのだろう。 ・ ずっと時間がかからなくなった。 ・ 道具は、どんどん簡単で便利になってきた。 ・ 道具が変わったので、くらしも変わった。 ・ くらしが楽になった。	◇ 古くから残る道具の使い方やそれを使った生活の様子を、過去の生活におけるかわりを考え、今の生活との共通点や相違点から整理して考えることができる。また、道具の変化にともなうくらしの変化を考え、わかりやすく伝えている。 (思・判・表)
⑪	郷土資料室に行って、地域の方に昔の道具やくらしの説明をしよう。 ・ 生活をよくしたいという願いから、知恵を出し工夫しながら道具を便利にしてきました。 ・ 他の道具もみんな、昔の人の知恵と工夫で使われています。 ・ 他の道具についてもくわしく説明してみよう。	◇ 昔からよりよいくらしを願って様々な工夫や努力をしてきたことで道具やくらしが変化してきたことがわかっている。 (知・理)

7 本時の指導

(1) 目標

道具の移り変わり年表を活用して、祖父母や父母の時代のそれぞれのくらしの様子と、今とを比較することを通して、人々のくらしがどのように変わってきたのかを考えることができる。

(2) 授業づくりの課題

これまでの学習でまとめてきた自分の絵年表をもとに、今の生活との共通点や相違点に目を向け話し合いを行えば、道具の変化とくらしの変化につながりがあることに気づき、自分の考えを深めることができるだろう。

(3) 展開

学習活動・内容	児童への働きかけ・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>昔から今へ、くらしはどのようにかわってきたのだろう。</p> </div> <p>2 グループごとに、絵年表からくらしの変化について気付いたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイッチ1つでできるようになったので、くらしが便利になった。 ・ 火加減やお湯加減を見ている必要がなくなったので、自由に使える時間が増えた。 ・ 水道ができたことによって、子どもが水くみをしなくてもよくなった。 ・ 電気・ガスができたことによって、短い時間で楽に調理できるようになった。 ・ 昔は家族みんなで力を合わせ、子どももよくお手伝いをしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土資料室のかまど・いろいろの写真，体験した七輪，コンロ，話を聞いた風呂のパネルをオープンスペース側に展示しておく。 ・ 前時の最後に、絵年表を見て「調理する道具」と「風呂」の移り変わりについて気付いたことを書かせておく。 ・ 道具の移り変わり絵年表を使って、今と祖父母時代、今と父母時代の生活の様子を比較して考えを出し合えるように、リーダーを支援する。 ・ くらしの変化について、どこがどう変わったのかを、矢印短冊カードに書く。 ・ 机間指導しながらグループの考えの根拠をはっきり言えるように助言する。 ・ 道具のよさに気づき、生活の知恵に目を向けて書いているグループには、称賛の声かけをする。 ・ 書くことに戸惑っているグループには、「七輪のころは?」、「ガスコンロのころは?」、「今では?」と問いかけながら、書くことを促す。
<p>3 くらしの変化について、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 七輪のころは、知恵を出し合い、時間と手間をかけて、手づくりのくらしをしていた。 ・ 家族で協力し合い、近所どうし助け合っけてくらししていた。 ・ 電化製品が増え、前よりくらしが便利になった。 ・ スイッチ1つで何でも手際よくできて、自由に使える時間が増えるなど、くらしが変わった。 ・ でも、今のくらしも震災の時のように、電気や水が止まると不便なこともある。 ・ エコな生活へと見直されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 矢印短冊カードを黒板に貼りながら、全体での話し合いを進めたい。 ・ 何を根拠にして考えたのかを、道具を使ってはっきり話すよう声をかける。 ・ 友達の意見と絡み合わせて発表している児童は称賛し、話し合いが繋がるようにする。 ・ 今と父母時代と祖父母時代の三つのくらしの変化を、長い矢印短冊カードを使いながら考えさせたい。 ・ 変わらないものもあることをおさえる。 ⑩ 道具の変化にともなって、くらしが変化してきたことを考えている。 (思・判・表：発表，ワークシート)
<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くらしは移り変わったけど、知恵を働かせて生きる姿は、今も昔も変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書や話し合いから、先人の知恵が今のくらしにも生きているということを感じ取らせる学習のまとめをしたい。